

主 日 礼 拝 8時半 / 10時半 / 夜 7 時

献 金 聖歌５７７番「主よなが誓いの」
 賛 美 ～慕い求めます/感謝の心～ 〔献金当番：寺澤[千]姉/知子姉〕
 祝 祷
 お知らせ 〔司会者〕
 賛 美 ～「平和初めて知った」～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします!☆
《今週のお知らせ》

☆来週の日曜礼拝では聖餐式(司:白川兄/祈:洋子姉/献金:渡辺姉・寺澤[千]姉)。午後は執事会。

◎9月20日(日)：敬老祝福礼拝[森脇兄]／27日(日)：聖歌隊◎

[illegible]

「私は福音を恥とはしない」

～主イエス様の十字架のお姿を目に焼き付ける～

「私は、この福音を少しも恥じてはいません。福音は、それを信じる人をだれでも天国に導く、神の力ある手段です。福音は最初、ユダヤ人だけに伝えられていました。しかし今では、すべての国の人が同じ方法で神のもとに招かれています。この福音は、私たちがキリストを信じる時、神が私たちを天国に入るにふさわしい者、すなわち、神の目から見て正しい者としてくださることを教えています。それは、初めから終わりまで、信仰によって達成されるのです。『正しい人は信仰によって生きる』(ハバクク 2・4)と、聖書に書いてあるとおりです。」

ローマの信徒への手紙 1章16・17節〔LB〕

パウロはどうして「私は福音を誇りとする」と言わずに「恥としない」と消極的かのように話したのか？そもそもここでパウロの言う「福音」とは何を意味しているのか？今回のテモテ書でも語られていますが、それは、パウロが現在置かれている牢獄での苦しみの姿、更に言えば、イエス様の受難について書かれていきます。イエス様の十字架でのお姿を思い浮かべると、実際には罪人の処刑ですから、彼らの姿は「恥」そのものでした。イザヤ書 53 章で描かれているように、イエス様の十字架でのお姿は私たちの目が見ることのできるような状況ではありませんでした。イエス様は極悪人の一人として死んでくださいました。しかし、イエス様には全く罪がありませんでした。

私たちは信仰の目を持ってイエス様を見上げることなしに、その救いを受け止めることはできません。

しかし、私たちの人生での挫折や失敗や弱さを通過した状況においては、その惨めなイエス様のお姿そのものが救いへと変えられるのです。

パウロ自身も死ぬほどの迫害と投獄の苦しみを通して、更に深くキリストを知ることができるようになっていったのです。